

令和4年度（第15期第2回）小平市廃棄物減量等推進審議会 会議要録

1 日時

令和4年8月19日（金） 午後2時～4時

2 場所

小平市リサイクルセンター 2F 多目的ルーム

3 出席者

○小平市廃棄物減量等推進審議会委員 15名

山谷修作会長、渡辺浩平副会長、青野敬吾委員、浅野薫委員、出雲崎暁子委員、伊東恵美委員、太田佳子委員、岸野好江委員、木村源一委員、先山厚子委員、下條隆久委員、武田直子委員、丹治由紀子委員、林周子委員、吉浦高志委員

（欠席）内藤新司委員、野口信一委員、山倉尚委員

○事務局 7名

環境部長、資源循環課長、資源循環課長補佐、資源循環課推進担当係長、資源循環課管理担当2名、資源循環課推進担当1名

4 傍聴者

0名

5 諮問

「小平市一般廃棄物処理基本計画の策定について」

6 議題

- (1) (仮称) 小平市第四次一般廃棄物処理基本計画の素案（たたき台）※抜粋
第4章、5章及び8章の検討
- (2) 小平市一般廃棄物処理基本計画（改定）の数値目標等（令和3年度実績）
- (3) 令和3年度の家庭ごみ有料化及び戸別収集に伴う歳入・歳出
- (4) その他

7 配布資料

(仮称) 小平市第四次一般廃棄物処理基本計画素案（たたき台）※抜粋	資料1-1
(仮称) 小平市第四次一般廃棄物処理基本計画 骨子案	資料1-2
小平市一般廃棄物処理基本計画の数値目標等（令和3年度実績）	資料2
目標指標推移（令和3年度実績）	資料3
令和3年度の家庭ごみ有料化及び戸別収集に伴う歳入歳出報告書	資料4
報告事項まとめ	資料5
小平市ごみ組成分析調査報告書	資料6
小平市資源・ごみに関するアンケート調査報告書	資料7
令和4年度ごみ量（速報値）	資料8
ジモティーとの提携・パトロール・出前授業	資料9
計画素案オピニオンシート	資料10

8 内容

<議事>

(1) (仮称) 小平市第四次一般廃棄物処理基本計画の素案(たたき台) ※抜粋 第4章、5章及び8章の検討

(事務局)

資料1-1、1-2について、(仮称) 小平市第四次一般廃棄物処理基本計画の素案(たたき台)について説明。

(吉浦委員)

第4章3(1)②について、飲食店の行動指針があるが、取組を依頼するのは、商店街や組合になるのか。また、加入していない小規模店舗は存在するのか。また、食ロス削減協力店のようなステッカーやポスターの作成や掲示についても考えているのか。

(事務局)

幅広く依頼することを考えているが、例えば、飲食店の関係においては、商工会に依頼をしそこから各店舗へ案内してもらうことも考えている。さらに、市報やホームページ等でも幅広く、小規模店舗から大規模店舗まで周知することを考えている。協力店の件について、実際に、どのように実施していくかは研究しながらということになる。現状、ステッカー等においては、まだ作成していない。課題として捉えており、協力店制度の勉強を進めていく。

(山谷会長)

食ロスについては、食品衛生関連の団体の協力は効果的だと考える。

(渡辺副会長)

第4章2(2)について、「市では収集できないものは、販売店や廃棄物処理業者に引き取りを依頼し」とあるが、一般廃棄物を扱うことができる廃棄物処理業者があるのか。産業廃棄物しか扱えない業者が、一般廃棄物を扱うことはできない。市が推奨する業者、または、販売店のみとする方がよいのではないか。

(山谷会長)

市のごみの出し方の案内については、どうなっているか。

(事務局)

市で収集できない物について広報やPRが少し足りていない部分があったと感じているので、新規として記載した。ご指摘のとおり、表記については、慎重に検討していく。

(山谷会長)

実際、市が収集していない物については販売店、例えば、土についてはごくわずかだが、ホームセンターで引き取ってもらえるところがある。また、処理業者に相談すると、処理業者は様々な情報を持っているので、処分方法の提案があるかもしれない。この部分については、市でも情報を把握できていないところもあると考える。

(事務局)

販売店のホームページでも、捨て方は市に確認くださいとなっているところもある。最終

的な排出方法が決まっていない品目もある。市が収集できない物であっても、案内はできるように、情報収集していきたい。

(武田委員)

第4章2(1)について、「図書館」が入っているが、物を買わない、つまり、新刊を買わないでおこうという意味に取られないか。

(事務局)

本の不買につながらないかというご指摘だと思うが、捨てられる本を減らすという観点で入れた。表現について、工夫する。

(林委員)

本を送るリサイクル等もある。買ってよいが、読み終わった本の処理について、人に譲ったり、違った利用をするというような追記をすればどうか。

(事務局)

別の方が使用するリユースにも関わってくるかと考える。同様に書き方の工夫を検討する。

(山谷会長)

フリマなどのイベントを実施していく他に、アプリなどを使ったリユースビジネスの事業者も増えている。市としても、そういったものを積極的に使用してもらうための広報等も重要となる。リユースの活性化が大事になってくる。

(浅野委員)

専門書を古本屋へ持っていたところ、そのほとんどが、値がつかなかった。図書館で確認したところ、同じものはないとのことで、捨ててしまうより図書館に蔵書として扱ってもらえればと思った。

(山谷会長)

図書館では新書のみしか扱っていない可能性がある。

(青野委員)

第8章14ページについて、「食べる時」の項目についてだが、食べるということは生活にとってとても重要なことであり、それぞれの好みもあると思う。このように、食べる順番まで記載してしまうのは適さないと考える。

(事務局)

極端な例となっており、傷みやすいものを先に食べるという意味だったが、表現方法について検討する。

(渡辺副会長)

第5章2(3)①について、セブンイレブンやジモティーといった事業者とは協定を結んでいるが、他の小売店にも広げていくというような記載もあった方がいいのでは思う。また、第5章4(1)①について、食物資源循環事業だが、もっと世帯数を拡大する旨の記述

を計画に入れられないか。関心が高いところと捉えており、興味のある小売店もあるのではと考える。

(事務局)

市としても、セブンイレブンのみにこだわっているわけではない。広げていきたいと考えている。食物資源循環事業の参加世帯数については、家庭ごみ有料化実施時に大きく増加したが、それ以降は横ばいとなっている。今後も最低限は維持しつつ、増加させていくことも考えているが、費用や収集運搬業者との調整等もあり、また、市民の需要も考えながら検討していく。表記を追加することについても検討する。

(先山委員)

第5章2(2)④について、以前の審議会で発言したイベントでの実物展示を取り上げていただいた。プラスチック製容器包装はアンケート調査で分別が難しいとの結果も出ているので、どのくらい汚れていると燃やすごみで、このくらいだと資源として出せると実際に展示すると効果が大きいと考える。さらにまた、燃やすごみの中の「資源となる雑誌やプラスチック製容器包装」の割合が高いので、これらを正しく分別することが重要。展示の内容として、燃やすごみの中に入っていた雑誌やプラスチック製容器包装などの資源となるものも展示したらどうか。また、第5章2(2)①について、すすいでしまうと水がつき悪臭の素となってしまう。施設の方より、作業環境上、悪臭が問題となるため、手で払ったり、不要な布等でふき取れば悪臭を抑えられると伺っている。表現について検討をお願いする。最後に、第5章3(1)④について、段ボールコンポストについてだが、第8章15ページでダンボールコンポストの説明があるが、読んでみて、理解できないところがあった。まずどのくらいの期間で堆肥になるのか。その後、堆肥をどうやって使うのか、残った段ボールはどうやって処理するのか、このような部分についても記載があればいいと感じた。

(事務局)

これまでは、新型コロナウイルスの影響もあり、イベントの機会がなかったが、これからは、展示の方をわかりやすく伝えられるよう工夫してやっていきたい。段ボールコンポストの例については、概要ということで記載しており、ご指摘のとおり処理方法についても気になる方もおられると思うので、どこまで記載できるかも考えながら検討する。

(吉浦委員)

第5章3(1)②について、カゴ出しの記載があるが、現在は市の収集は袋出しが基本となっているが、これと関連しているのか。

(事務局)

関連している。すでに、市の収集ではカゴ出しも認めている。

(吉浦委員)

カゴ出しになれば、例えば袋の中に注射針が入ってしまうようなことも防げるので、ぜひとも推奨して欲しい。また、これはカゴ出しにしぼっていくということか。

(事務局)

あくまで排出方法の一つとして、カゴ出しがあることを啓発している。

(下條委員)

株式会社ジモティーについて、業務内容や粗大ごみを持ち込むことができるか教えて欲しい。

(事務局)

株式会社ジモティーと今年度7月に協定を締結している。株式会社ジモティーは物を欲しい人と、物を捨てたい人とを、インターネットの掲示板でマッチングさせるような業務を実施している。市でこういったものを案内することによって、捨てるよりリユースすることにつながっていくことを目的としている。

(山谷会長)

ジモティーを通すことによって、市民がどのくらいリユースを実施したかを把握することもできる。また、自治体によっては、場所を提供しているところもある。

(木村委員)

第5章2(1)②について、小学4年生とあるが、幼稚園や保育園から実施した方が、その子たちが大きくなった時により意識できるのではないか。小平にも市立保育園もあるので、そういったところからやってみるのもどうか。続いて、第5章4(1)③について、リサイクルきゃらばんを実施しているのは知っているが、巡回きゃらばんなども実施してはどうか。市報などで巡回する地区を広報して実施することで、決まった地点まで行けない市民の利便性が向上すると考える。施設関係で、ある市町村では、焼却施設を建て替えた際に仕様の変更を行い、貴金属を取得できるようにし、それを売却し収入とすることができた。今後の改修時には、このようなことも考える必要があると感じた。

(事務局)

出前授業については、小学4年生で環境授業を実施するということが決まっている。ただ、もっと前から意識の醸成を行うことは重要と考えられるので、授業というよりお話しのような内容で実施することは検討できると考える。リサイクルきゃらばんについては、年4回程度場所を決めて実施している。巡回しながら実施するとなると、スペースや受取方法などの問題が生じるため、今後の研究とする。現在、小平・村山・大和衛生組合で焼却場を改修中だが、発電ができる仕様となっており、売電も含め活用していくことを考えている。

(2) 小平市一般廃棄物処理基本計画(改定)の数値目標等(令和3年度実績)

(3) 令和3年度の家庭ごみ有料化及び戸別収集に伴う歳入・歳出

(事務局)

資料2、3について、小平市一般廃棄物処理基本計画(改定)の数値目標等(令和3年度実績)及び、資料4について、令和3年度の家庭ごみ有料化及び戸別収集に伴う歳入・歳出について説明。

(青野委員)

資料4について、歳入と歳出が同額となっているが、実際にそうなっているのか。

(事務局)

これは家庭ごみ有料化及び戸別収集実施による増加分の使いみちを表しており、歳入歳出が同額となっている。

(渡辺副会長)

令和2年度と大きく変わったところはないという認識でよいか。

(事務局)

問題ない。

(浅野委員)

資料4について、歳出に戸別収集委託料(増額分)約2億円があるが、戸別収集になったことでここまで増加するのか。ごみ量は減っているが、今後もこのままなのか。

(事務局)

有料化戸別収集後は、2割程度の増加となっている。もともと8000箇所のごみステーションを回っていたものが、個人宅を回るようになり、おおよそ5倍との40000箇所となった。担当の業者は変わっていない。収集頻度や収集エリアの見直しにより、より効率よく回れるように考慮したが、若干の委託料の増加となった。

(渡辺副会長)

数値目標について、有料化前は順調に減少しているところだが、有料化後は有料化や新型コロナウイルスの影響で、ごみ量に変化が出ている。変動が大きいと思われるが、今後はどのような減量の計画を立てるのか。具体的な数値はまだ決まっていないと思うが、考え方を教えてほしい。

(事務局)

現在、コンサル業者と検討中だが、次期計画では、有料化のような大きくごみ量が減少する要素はなく、分別適正化等による減量の積み重ねによる標準的な減量計画を検討している。

(渡辺副会長)

有料化以前でもそれぞれの項目が減少している。この傾向を今後もどうすれば継続できるか計画で示すことが重要と考える。

(山谷会長)

有料化前年のごみ量の増加は、かけこみにより生じたものになる。有料化を10月に実施すると、このようにはならない。その後、有料化により減少し、今度は新型コロナウイルスの影響で再び増加している。コロナの影響については、まだ先を見通すことは難しいと感じる。

<その他>

(事務局)

資料5に沿い、資料6～10について、説明。

(浅野委員)

出前授業はとてもおもしろい試みだと考えているが、実際受けた感想がわかれば教えて欲しい。

(事務局)

授業で盛り上がるのは、シンボルキャラクターのヘラスンジャーが行う環境教育に関するクイズをすところと、実際の地域の収集作業員によるパッカー車などを用いたごみの投入体験などになる。質問においても、専門的なものから素朴なものまで、様々な質問が出る。写真にも出ているように、児童は積極的に参加していると感じる。最近では、リサイクルセンターに来てもらい、実際の処理現場で学んでもらう試みも行った。こちらについても、今後拡げていけたらと考えている。

(渡辺副会長)

ごみ組成分析調査やアンケート調査は経年的にやっているが、今回の結果で気になった点はあるか。それと、ごみ量について持込の粗大ごみが激減しているが、その原因は何か。リサイクルセンター見学はまだ一校のみだが、今後についてはどうか。

(事務局)

燃やすごみの分別不適物は増加する結果となったが、分別方法が変わっており、単純な比較はできないと考えている。引き続き、調査を行い、変化を捉えていく。持込の粗大ごみの減少については、焼却場の建て替え工事に伴い、敷地内に入れないようになり市民が直接、持込ができないため減少しているものと考えている。リサイクルセンター見学については、小学校長などが集まる場で案内をしている。リサイクルセンター広場が完成し、大型バスの駐車場もできたので、できる限り見学が増えるように今後も周知に努めていく。

(先山委員)

アンケート結果についてだが、市民が見ている資料としては「資源とごみの収集カレンダー」が多い。そのため、カレンダーの中での分別についての説明が大事だと考える。ごみについて、この審議会でもクリーンメイトでも同じ質問が何回か出ている。ごみの出し方の説明について疑問に思っていることを話し合う場を設けて、こう書いてあればわかりやすいとまとめて、それを市の方で検討してカレンダーの記載に反映していただければと考える。

(事務局)

審議会では難しいかと考えるが、市民の実際に近い取組を行っているクリーンメイトの会議でそのような議論ができたらと考える。

(渡辺副会長)

ジモティーと協定を結んだということだが、周知啓発のみなのか。他に内容があれば教えて欲しい。ジモティーに流れるとさらにリユースが進むことが期待される。

(事務局)

まずは、周知啓発を行っていく。他の自治体では、すでに拡げて実施しているところもある。場所の提供の問題やリプレこだいらとの連携も考慮しながら、引き続きジモティーと、どのようなことができるのか両方で検討をしていくことになる。

